

選 挙 公 示  
2022 年 5 月 9 日

日本気象学会九州支部選挙管理委員会  
選挙管理委員 西郷政典・小野貴広

### 第 42 期日本気象学会九州支部理事の選挙について

標記について、下記のとおり選挙を実施します。

今回は候補者数が理事の定数の枠内のため、信任投票となります。

#### 記

1. 候補者氏名（届出順） 所属  
竹村 俊彦 九州大学応用力学研究所・教授  
中本 能久 福岡管区气象台・台長  
西 憲敬 福岡大学理学部地球圏科学科・教授  
望月 崇 九州大学大学院理学研究院・准教授  
羽廣 正樹 熊本市役所危機管理防災総室、日本気象予報士会西部支部  
鈴木 賢士 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授  
瀧下 洋一 鹿児島地方气象台・台長  
濱田 修 福岡管区气象台・気象防災部長  
冨田 智彦 熊本大学大学院先端科学研究部・准教授
2. 理事の定数 概ね 8 名
3. 投票の方法 無記名の信任投票となります。  
郵送された立候補者の所信を参考に、投票用紙に信任の場合○を、  
不信任の場合×を記入し、郵送ください。  
○×以外が記入されている場合（無記入を含む）は、その候補者  
に対する投票は無効とします。
4. 投票締切日 2022 年 5 月 25 日（水）（必着）  
※5 月 9 日に投票用紙および立候補者の所信等を発送しました。万  
一数日たっても投票用紙等が届かない場合は、九州支部選挙管理委  
員会までご連絡ください。
5. 投票用紙送付先 〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36  
福岡管区气象台 気象防災部防災調査課内  
日本気象学会九州支部 選挙管理委員会  
電話：092-725-3614 e-mail: info@msj-kyushu.jp

## 第 42 期日本気象学会九州支部理事選挙候補者

ふりがな たけむら としひこ  
氏名：竹村 俊彦

所属：九州大学応用力学研究所・教授

所信：第 41 期にて初めて九州支部理事を務めさせて頂きましたが、コロナ禍においても支部活動を継続するために、気象教室やサイエンスカフェをオンラインで開催できるように準備をさせて頂きました。その結果、これまでの対面開催では難しかった遠方の方々の参加が可能となり、参加人数が増加するという利点も見えてきました。

今後は、対面とオンラインのそれぞれ良い面を取り入れながらイベントを開催するなど、引き続き九州支部の活動に貢献できればと考えております。また、第 42 期には日本気象学会理事にも着任することとなりました。中央との橋渡しの役割も果たせるように努力させて頂きます。

ふりがな なかもと よしひさ  
氏名：中本 能久

所属：福岡管区气象台・台長

所信：九州では、これまでの 5 年間、毎年、大雨特別警報が発表され線状降水帯に関する関心が高まっています。一方、この現象のメカニズムについては不明な点も多く、今年には気象研究所を中心とした集中観測が計画されています。気象学会九州支部においてもこれらの活動と連携し、地元九州の方々に学会の活動を通じて線状降水帯に関する理解を深めていただきたいと考えています。

ふりがな にし のりゆき  
氏名：西 憲敬

所属：福岡大学理学部地球圏科学科・教授

所信：九州支部にまいりましてから、9 年が経ちます。当初は大学・気象庁をはじめ、さまざまな方と活発な交流ができて、大変良い環境の支部だと喜んでおりましたが、ここ 2 年は新型コロナのためにそれらが控えめになってしまいました。状況の改善がみられましたら、機会をみてまた会員間の情報交換が活発にできるような努力をしたいと思います。とくに、オフライン(対面)での行事はとても大切だと思いますので、早期にさまざまな方策を考えられたらと思っています。一方、職場では情報関係の教育や業務も担当しておりますので、オンラインでの活動にその経験も生かせればと考えております。

ふりがな もちづき たかし  
氏名：望月 崇

所属：九州大学大学院理学研究院・准教授

所信：変わりゆく気候のもとで集中豪雨のような気象現象の激甚化もみられ、防災減災や農業漁業等、日々の暮らしを広範に支える気象学の発展はますます大きな社会的意義をもちます。そのようななか、気象現象に関する業務・研究・教育・興味関心といった様々な背景をもつ様々な年代の人々が、地域の繋がりを意識しながら確かな科学に基づく情報交換をおこなえる場として、日本気象学会九州支部がもつ役割は小さくありません。九州支部には既に、気象教室、サイエンスカフェ、支部発表会、ジュニアセッション等、研究最前線に触れられると同時に双方向交流できる多くの機会がありま

す。これら機会の一層の充実を図り、気象学の学術的發展とともに九州支部の發展に貢献します。

ふりがな はびろ まさき  
氏名：羽廣 正樹

所属：熊本市役所危機管理防災総室、日本気象予報士会西部支部

所信：私は、子どもの頃から気象学が大好きで、2010年に気象予報士を取得、現在は防災部局で気象予報士の知識を最大限活用して、出水期前の防災啓発や大雨時の避難情報の発令などの業務に取り組んでいます。また、一人の気象予報士として、気象災害で犠牲者ゼロの社会の実現に微力ながら貢献できるよう啓発活動を行っています。

しかし、毎年どこかで災害が起こり、改めて気象学の奥深さを感じていました。防災業務を行う者として、いち気象予報士として、歴史ある本学会で気象学を学び、微力ながら気象学の普及及び發展に貢献したいと思い、昨年度に引き続き立候補いたします。

ふりがな すずき けんじ  
氏名：鈴木 賢士

所属：山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授

所信：今年は、気象庁が中心となって行う線状降水帯機構解明のための集中観測が梅雨期の九州で実施されます。私もこの観測に参加します。九州支部所属の研究者として、この九州で発生する豪雨のメカニズムを明らかにしたいと考えています。支部発表会などによる科学的側面の意見交換や議論、さらに一般市民に向けた防災・減災の啓蒙活動など、より地域に目を向けた支部の活動が果たす役割は大きいと考えます。私は、引き続き微力ながら学会および支部活動に尽力したいと思います。

ふりがな たきした よういち  
氏名：瀧下 洋一

所属：鹿児島地方気象台・台長

所信：九州は、毎年のように顕著な大雨により大きな災害が発生しています。このような現象から命を守るためには、防災関係機関や住民一人ひとりが適時に適切な防災対応を行う必要があります。防災対応を支えるのは、現象の科学的知見に基づいた的確な防災気象情報であり、現象のメカニズムの解明など日本気象学会が果たす役割はますます重要になっています。気象台においても、気象災害から住民の命を守るため、地域防災力の強化に向けて取組を強化しているところであり、気象知識の普及・啓発に取り組んでいきたいと考えています。

ふりがな はまだ おきむ  
氏名：濱田 修

所属：福岡管区気象台・気象防災部長

所信：近年、災害の頻発・激甚化に伴い、社会全体の防災意識は高まりを見せるなど、気象業務に対する社会のニーズは増大・多様化しています。これらニーズに対応するためには、気象分野における研究の發展と研究成果の適切な社会実装が極めて重要であり、学術研究を推進する日本気象学会の役割は益々大きくなっていると思っております。学術研究と気象防災としての行政ニーズのつなぎ役として微力ながら努めて参りたいと考えております。

ふりがな とみた ともひこ  
氏名：富田 智彦

所属：熊本大学大学院先端科学研究部・准教授

所信：近年、九州を含む西日本を中心に毎年のように記録的な豪雨が発生し、甚大な人的・経済的被害をもたらされています。令和2年7月豪雨は、熊本の球磨川流域に甚大な被害をもたらしました。そこでこのような大雨の発生メカニズムを理解し、予測性能を上げ、被害を軽減していくことが求められます。

私は、これまで大学教員として主に大規模循環の観点から梅雨季の降水変動についての研究を進め、人材育成に携わってきました。ここでの経験を生かし、また38期から41期までの8年間にわたる支部理事としての経験を生かし、微力ながら気象学における学術研究の発展、次世代を担う人材育成、そして九州支部会員数の増大に貢献する所存です。

(以上)